

行政視察報告書

令和6年1月12日

会派名 江政クラブ
会派代表者 長尾 光春

(参加者：長尾光春、中野裕二)
行政視察の結果について、次のとおり報告します。

年月日	令和5年10月11日(水)
視察時間	午後1時00分～午後3時00分
視察先	三沢飛行場(青森県三沢市)
視察項目	三沢飛行場について(航空機事故等が発生した場合などにおける基地の対応等を学び、市民の安全確保に役立てる)

行政視察報告書

年月日	令和5年10月11日（水）
視察時間	午後1時00分～午後3時00分
視察先	三沢飛行場（青森県三沢市）
視察項目	三沢飛行場について（航空機事故等が発生した場合などにおける基地の対応等を学び、市民の安全確保に役立てる）
<p>■目的</p> <p>青森県三沢市には、航空自衛隊三沢基地、米軍三沢基地、および三沢空港が共存していると同時に、三沢市の市中心部に隣接する形で基地・空港が整備されています。江南市は、北側に岐阜県各務原市の航空自衛隊岐阜基地があり、南東部に航空自衛隊小牧基地および県営名古屋空港があり、市上空を飛行機が通過する状況で似たような環境であると考えられます。</p> <p>今回は、米軍三沢基地を対象に行政視察を行い、航空機事故等が発生した場合などにおける基地の対応等を学び、市民の安全確保に役立てることを目的に、調査を行います。</p>	
<p>■内容</p> <p>三沢基地は、航空自衛隊唯一の日米共同使用航空作戦基地です。航空自衛隊の部隊は13個部隊が所在しており、航空機は自衛隊のF-35A戦闘機、米軍のF-16戦闘機等が常駐しています。同基地は地理的、能力的にも北部防衛の要石であり、日米共同の実を最高度に発揮し得る基地です。</p> <p>同基地は昭和17年に三沢海軍航空隊の飛行場として開設され、昭和33年北部航空方面隊司令部が発足し、基地の共同使用を開始しました。</p> <p>米軍三沢基地には、現在米兵を始め、同家族や、基地内で働く職員などが約1.1万人いるとの説明がありました。航空自衛隊の隊員や基地職員などもほぼ同数であり、市の人口約3.8万人と併せ約6万人が三沢市に在住していることがわかりました。</p> <p>米軍基地に配備されている戦闘機はF-16で、この機体は1980年代から継続的に配備されている機体であり、機体そのものにはなんら欠陥や不具合はなく、機体の不備による墜落は発生していないこともわかりました。</p> <p>自衛隊、および米軍での訓練は主に、太平洋上空で行われていることから、訓練中における航空機の墜落については、すべて洋上であり、三沢市の市街地に墜落することはないことがわかりました。</p> <p>航空機事故が発生し市街地に被害が発生した場合の対応については、想定されているあらゆるケースに対して、対応手順が整備されており、その手順に従った対応が適切かつ早急を実施されることになっているが、そもそも墜落する可能性のある</p>	

機体を離陸させることは100%ありえないとの説明がありました。

考えられるケースで比較的発生率が高い事故としては、航空機が着陸する際に急な突風により機体が煽られ、機体のタイヤがバーストするケースがあることが紹介されましたが、これは、着陸時の滑走路上でのことであり、市街地への影響は全くない事例であることも紹介されました。

■所感

今回視察を行った米軍三沢基地は、青森県三沢市に暮らす市民の皆さまに広く情報公開されているとともに、市民と兵士との交流が多く取られていることがわかりました。また、自衛隊と米軍が共同で作戦を遂行できるよう、日常的に訓練が行われていることや、自衛隊の戦闘機で取得した情報が瞬時に米軍の戦闘機に情報提供される仕組みが整っており、基地が共同利用されているメリットが大きいことがわかりました。

視察目的であった航空機事故による、周辺市街地への影響については、米軍としては100%ありえないと、胸を張って断言するだけの強いプロ意識が表れているとともに、メンテナンス部隊や医療部隊、作戦部隊など、それぞれが自主的に役割を果たす仕組みが整えられていることから、全く心配する必要がないことがわかりました。また、万が一の事故等に対する対応手順が整備されており、その手順に従った対応が適切かつ早急を実施されることになっていることに安心感を抱きました。

自衛隊においてもほぼ同様な手順書が整備されていることから、江南市において航空機事故が発生しても適切かつ早急を実施されることを容易に想像することができ、不安要素がなくなったと考えます。